

## 第8期（2019年度）事業報告

2019年10月1日～2020年9月30日

### 事業報告書

#### 1. 事業概要

財団は、8期目を終えた。2012年（平成24年）10月の設立から考えると8年が経ち、9年目に入った。今期は、2020年に入るとコロナ感染から非常事態宣言が出された変革の年でもあった。

コロナ下にあっても今までの財団活動を見直して、可能な限りの今までの事業を継続すべく工夫して、次の5つの事業に取り組んできた。

- (1) 西河技術経営塾（実践経営スクール）
- (2) 西河技術経営塾入門講座（高崎→沼田）
- (3) 研修事業（敬愛大学への寄付講座）
- (4) 技術経営人財育成セミナー
- (5) 調査研究（地方創生研究会、「西河技術経営学」研究会）

2020年1月には、昨年来取り組んできた「賀詞交歓会」を、日本工業倶楽部（東京・千代田区）に移し、開催した。お世話になっている先生や、財団が指導してきた各機関の塾生を招待できた。

2020年3月には『西河「技術経営学」入門』を芙蓉書房出版から発刊し、技術経営に関連する研究活動の成果を形にできた。その教材を使った「西河技術経営塾入門講座（群馬・沼田市）」を新規の事業として企画した。財団で取り組んできた地方創生の具体的な取り組みとしても位置付けられた「西河技術経営塾入門」講座、利根沼田地区の若き経営者5名の教育に取り組んだ。

財団設立の背景には「失われた20年」といわれる1990年代から低迷してきた日本経済を成長軌道に乗せられないかがあった。技術経営学の研究成果を使い、経営者を育成することで、日本経済の活性化の一助にならないかに財団設立の狙いがある。当財団は「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」と定款にあるように、技術経営人財の育成と活用に関する事業に8年間、取り組んできた。

コロナが始動した大変革年である8期が終わった。8期を一つの区切りとして財団は、次世代を意識した教材づくりの研究と指導者育成に取組みを開始した。財団の5カ年計画立案の基盤づくりができた8期であった。

財団は永遠でなければならない。9期に始まる5カ年計画は、9期の事業計画として提案する。

## 2. 西河技術経営塾

### 「研究科」では、次の世代の技術経営塾の講師の育成に取り組む

西河経営塾（東京・渋谷区）は、「実践経営スクール」「研究科・前期」「研究科・後期」の3階層で構成されている。

(1) 実践経営スクールは、技術経営をするための実践知を学ぶ場である。

(2) 研究科は、「塾での教授方法をいかに次の世代を担う講師陣に伝える」ことを目的に設置し、研究科・前期と研究科・後期で構成する。

(3) 研究科・前期では、特定領域を決め、その領域の研究に取り組む。「技術経営をするための知識を指導できる特定分野の知識」「未来を経営する創造力を身に付ける」とし、一般社団法人日本開発工学会をはじめとする学会への査読論文を1本以上採録されることなどを修了要件とする。

塾修了者だけでなく、大学院修了者も理事会で審議し、履修生になれる。

(4) 研究科・後期の研究生は、大学院に入り大学との共同研究などを通して、博士（学術）などの取得を目指す。研究科・前期修了者だけでなく、博士号取得者を理事会で審議し、その水準にあると認めた場合には履修生になれる。

### 2. 1 西河技術経営塾・実践経営スクールの概要

西河技術経営塾・実践経営スクールでは、変革をつくるマーケティングを学び、豊かな社会づくりに取り組むことができる技術経営人財を育成する。

講座は午後6時に開始され、座学90分、演習90分の180分で構成され、休憩10分を挟んで、午後9時10分に終了する。原則週1回、連続して32回開催する。

技術経営塾での学びを6項目に整理した。

- (1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ
- (2) お金は企業の血液であることを学ぶ
- (3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ
- (4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する
- (5) 誠実な経営人財を育成する
- (6) 現職の経営者が学び、学んだことをすぐ経営に生かす

#### (1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ

米国型経営の中核に株主がいるとすると、日本型経営の中核には従業員がいる。日本の会社は、終身雇用で社員を大事にする。景気が悪いと言っても、正規社員は簡単に首を切らない。日本の学生は学校を卒業すると就職ではなく、親とも相談し、会社選びに取り組み、就社をする。

日本の経営者の指導力は、ボトムアップのやる気を引き出すことにある。技術重視の経営は、現場からの改善力（現場力）を引き出すことにあり、技術の分かる経営者によって実現してきた。

## **(2) お金は企業の血液であることを学ぶ**

会計情報が、企業活動を把握する上で重要なパラメータであることを教える。

大学院での講座は、1つの特定の領域における専門家の先生が講義する。なかなか経営全般を理解し、横串を刺して教えることは実務経験がないと難しい。経営では、金銭管理（会計情報）で組織の横串を刺す。

## **(3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ**

塾生に売上を10倍にする経営戦略を考える。売上を10倍にしようとする、経営学を学ばないとできない。「頑張ろう」という精神論だけで実現することはできない。3年とか5年とかの中長期計画を立案し、全社で組織的に人財の育成をするとともに、モノ、カネに関する戦略を立案し、計画的に取り組まなければ実現できない。

## **(4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する**

経営の知識を座学で学び、演習で経営に携わっていることを絡めた宿題に取り組み、宿題を発表することで塾生参加型の実務に役立つ経営塾を実現している。

塾生は経営幹部として仕事をしていることが前提となる。

小人数で取り組む当塾の演習は、経営者の実践力の向上につながる。演習は学びの検証の場でもある。講師にとっても塾生の理解度を把握できる。

## **(5) 誠実な技術経営人財を育成する**

経営責任者として社会に役に立つには、誠実な心を持つ人間でなければならない。財団の「アーネスト」は、「誠実」を意味する。「誠実」でかつ「やる気」と「気力」を持っている人物かを評価し、入塾を許可している。更には、演習などを通して、繰り返し、嘘をつかない、誠実な経営を心掛けることを指導してきた、

## **2. 2 西河技術経営塾・実践経営スクールの開塾状況**

### **(1) 開催日程**

本実践経営スクールは、32回開催する。原則、毎週水曜日に開講し、1日の構成は前半の18時～19時30分が学習の時間、後半の19時40分～21時10分が演習の時間としている。演習では、課題研究の発表、ケース研究、ディベートなどを行い、創生力やコミュニケーション力を鍛錬している。

第7期生は2019年9月11日に開塾、5名が入塾し、2020年5月31日付で植田和真、稲垣通泰、望月秀晃、原澤 史浩の4名に対し修了証を渡した。優良賞を植田和真に授与した。

4月8日からは、コロナ感染の懸念もあり、Zoomを使った遠隔講義に切り替えた。

### **(2) 第7期の開講実績**

(第1講座) 2019年9月11日、開講式：開講にあたって（小平専務理事）

演習：自己紹介と受講目標、意見交換後、再度の目標設定と報告。

- (第2講座) 9月18日、まず自社のビジネスモデルを考える(小平)  
演習: 自社のビジネスモデルを報告する。
- (第3講座) 9月25日、事業計画を作成する(大橋克巳研究員)  
演習: 自社のビジネスモデルを報告する。  
=== 以下、今年度 ===
- (第4講座) 10月02日、会社の状態を会計数値で管理する(小平)  
演習: 事業計画を記述する。
- (第5講座) 10月09日、新規の市場を創生する(山中研究員)  
演習: 自社の事業や経営を会計数値で管理(原価計算、損益)
- (第6講座) 10月16日、戦略の基礎と技術経営戦略を学ぶ(小平)  
演習: 西河塾長の講義
- (第7講座) 10月23日、企業組織と組織的活動を学ぶ(前田光幸研究員)  
演習: 自社のSWOT分析(自社(もしくは競合社)の財務諸表を報告する。
- (第8講義) 10月30日、エンジニアリング・ブランドと技術経営を学ぶ(小平)  
演習: 自社の事業計画(事業計画書、中期事業計画(3か年))と戦略と戦術を語る
- (第9講座) 11月06日、顧客とのコミュニケーションを考える(小平)  
演習: 自社の戦略と戦術と現状の課題を報告する
- (第10講座) 11月13日、ビジネスを会計数値で管理する(前田)  
演習: 自社をPRするパ広告を作ろう
- (第11講座) 11月20日、モノづくりを理解し、生産活動を学ぶ(杉本晴重理事)  
演習: ブランドコンセプトとブランド構築戦略を報告する
- (第12講座) 11月27日、モノづくりを会計数値で管理する(杉本)  
演習: 貴社の無駄取りを検討する
- (第13講座) 12月04日、中長期計画を作成する(小平)  
演習: 原価管理、経費管理の現状と課題と対策
- (第14講座) 12月18日、サービスの8Pとホスピタリティ・センスウェア(山中)  
演習: 生産技術、エンジニアリング、テクノロジー、科学・・・開発戦略
- (第15講座) 12月25日、商品開発の進め方(杉本)  
演習: 自社の4P+2Cまたは8Pの報告とマーケティング戦略
- (第16講座) 2020年1月22日、企業文化とアイデンティティを考える(前田)  
演習: 事業別(製品別)収支計算書(原価計算書)を作成する
- (第17講座) 1月29日、人材育成と設備投資(小平)  
演習: 技術開発、商品開発、保守サービスなどの開発マネジメント
- (第18講座) 2月05日、ICTを活用した新規ビジネス(山中)  
演習: 事業拡大に伴う銀行向け中長期経営計画書2(事業収支)の作成
- (第19講座) 2月12日、海外市場と貿易取引(浅野昌宏理事)  
演習: ブランド構築と広告のデザイン
- (第20講座) 2月19日、海外におけるモノづくり(杉本)  
演習: 企業アイデンティティとブランドの提案

- (第 21 講座) 2 月 26 日、サービス・イノベーションで新規ビジネス (山中)  
演習: 貴社の ICT 戦略 (即時実行、短期計画、中長期計画)
- (第 22 講座) 3 月 04 日、イノベーションを作る経営戦略 (小平)  
演習: ロボットの研究 (現状分析、自社の利用、未来志向)
- (第 23 講座) 3 月 11 日、プロジェクトマネジメント (浅野)  
演習: 演習: マーケット観察 (競争の場面を見て、調査し、対策を立案する)
- (第 24 講座) 3 月 18 日、M&A、知的財産 (浅野)  
演習: サービス・イノベーション戦略 (中期) を企画する
- (第 25 講座) 3 月 25 日、課題研究、報告書と論文の書き方 (小平)  
演習: 世界をリードした日本のイノベーション事例を 6 つ挙げ特徴と理由を報告。
- (第 26 講座) 4 月 01 日、マネジメントとリーダーシップ (小平)  
演習: 研究報告書のテーマの設定
- (第 27 講座: Zoom) 4 月 08 日、会社を取り巻く法令と規則 (小平)  
演習: 市場の看板や広告を研究し、自社の看板を企画する。
- (第 28 講座: Zoom) 4 月 15 日、企業のコミュニケーション(前田)  
演習: 人材育成上の問題と原因
- (第 29 講座: Zoom) 4 月 22 日、リスクマネジメントと失敗学 (浅野)  
演習: 研究報告書のテーマと概要レビュー (1)
- (第 30 講座: Zoom) 5 月 13 日、研究報告書のテーマと概要レビュー (2)  
演習: 研究報告書のテーマと概要レビュー (3)
- (第 31 講座: Zoom) 5 月 20 日、課題発表会 (1) (2)、<審査>
- (第 32 講座: Zoom) 5 月 27 日、最終発表、修了式

### (3) 受講料 (税込)

受講料は、売上規模に関わらず一律 15 万円+税である。

### (4) 第 8 期生の開講 (2020 年 10 月 7 日開催、2021 年 7 月 28 日修了予定)

第 8 期生は、為野大地、小笠原健人、山下史恵、西河 進、村脇 隆太郎の 5 名が合格した。2020 年 10 月 07 日から始まり、2021 年 7 月 28 日に修了する。

## 2. 3 西河技術経営塾研究科・前期と研究科・後期

小平和一郎専務理事が指導教官となり取り組んだ。研究科・前期の研究生は空席である。研究科・後期の研究生は、山中隆俊 (工学博士) の 1 名である。

### 研究科・後期: 山中隆俊 (㈱メディカルパーフェクト代表取締役)

西河技術経営塾第 7 期 (2019 年 9 月開塾) では、4 講座 (新規の市場を創出する (第 4 章)、サービスの 8P とホスピタリティとサービス (第 13 章)、ICT を活用した新規ビジネス (第 17 章)、サービス・イノベーション (第 20 章)) の講師を担当した。前期の 2018 年 7 月 15 日号から Earnest のコラム (技術経営) を引き続き、担当している。

### 3. 研修事業

#### 3. 1 西河技術経営塾入門講座（高崎→沼田）の運営

本講座は芙蓉書房から出版された『西河「技術経営学」入門』を教材に使った講座である。『西河技術経営塾』の入門講座として位置付けられ、平易に「技術経営学」を学習し、実務に生かすことが出来る演習に取り組んだ。教材に沿って復習をベースに講座を進めることで、効率的に技術経営学を学ぶことができないかの試行に狙いがあった。

本講座は、新型コロナ感染拡大の懸念もあり当初予定した4月11日の開講を5月23日に延期して開講した。開催場所も高崎の駅近くの会議室を予定していたが、沼田市にある小坂建設の集会室を借りて開催した。

技術経営を概括するとエンジニアリング（技術）が経営の中心にあり、その周りに「企業観」「ビジネスモデル」「市場創出」「中長期計画」の4つの経営課題が配置されている。それぞれの経営課題は技術と連携しながら活動をしている。本講座は、『西河「技術経営学」入門』の図書と同じく、4部構成、14章で組み立てた。

##### （1）西河技術経営塾入門講座の概要

###### 技術経営ノウハウを個別指導

未来に向かって経営計画を立てて、社員と共に取り組むのが経営である。企業理念で経営目的を明らかにし、理念を実現するためのビジネスモデルを構想し、ビジネスモデルを実現するための事業計画を中長期的な視点で作成する。

次に事業計画達成のための具体的な戦略を組織構成員に明らかにする。戦略は、具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術で組み立てることが必要である。実行に当たっては、企業力である「ヒト、モノ、金」で裏付けされていなければならない。

###### 未来を向いて経営する

「経営は未来学」である。常に未来に向かって経営計画を立案し、社員と共に事業に取り組むことで計画の実現が可能となる。経営トップは、明確な経営目的である企業理念をもち、理念を実現するためのビジネスモデルを明らかにする。

次にビジネスモデルを実現するための事業計画を策定し、その事業計画は、3年とか5年とかの中期的、長期的な時間軸を意識した経営計画を作成する。作成した計画を実行するにあたり、取り組むべき戦略を社員と共有する。

###### 戦術、戦力で裏付けされた戦略

経営戦略は、強みの源泉であるエンジニアリングの存在を意識して具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術が明確でなければならない。まさに戦術は企業力である「ヒト、モノ、金」という実現性のある調達可能な戦力が準備されて可能となる。経営学ではよく戦略重視といわれるが、戦略だけが一人歩きしても、それを実行するために必要な技術の存在を意識した、技術経営戦略でなければ実行することはできない。

##### （2）予習・復習の実施

アシスタント講師として、小坂哲平（5期生）が就任した。小坂は、一回の講義に向け

て、二回の「予習・復習」の時間を設け、受講生を指導した。予習と復習の時間では、教科書（西河技術経営学入門）の読み合わせはもちろん、宿題である次回講義の演習課題（ビジネスモデル、経営理念、SWOT分析、商品開発戦略、エンジニアリング・ブランド、中長期目標など）について受講生と活発に議論した。予習においてブラッシュアップした演習課題を講義の中で講師にぶつけて知見を得ることで、大きな学びの機会とビジネスのヒントを得ることができている。

当初は10時20分から16時50分までだったが、9時30分から18時30分までと時間を延長して取組んだ。

今回の取り組みは、財団が取り組む地方創生活動の具体的な実践である。小坂建設（小坂哲平代表取締役社長）は、本研修の協賛企業として、企画提案に取り組んだ一員でもあり、社長の小坂哲平はアシスタント講師として、演習の司会を担当した。

2020年10月3日（次期）を修了式として、取り組みを終える。受講生の技術経営に関する実践的な知識レベルでは、代々木で行う『西河技術経営塾』と比較して、見劣りの無い成果を出すことができた。次年度に向け、講座構成を見直し、更に効率的な実践的な知識が身につくよう試行を重ねる。

### 3. 2 敬愛大学（千葉市）での寄付講座（3期目）

敬愛大学（三幣利夫学長）における『経営シミュレーション－西河技術経営学入門－』と題する寄付講座は、3期目になる。敬愛大学経済学部経営学科の学生に、日本のモノづくり企業にとって重要な「技術経営」を教える。経営学が教えられて技術経営学が学部で教えられないはずはないとの疑問からの取り組みである。学生に経営を教えることは難しいが、分かり易く経営を説明する研究につながっている。

2020年4月から7月まで、敬愛大学経済学部経営学科にて『経営シミュレーション（西河技術経営学入門）』と題する寄付講座に取り組む予定であったが、コロナ感染問題があり、対面式の講義で、下期の9月30日（水）から取り組むこととなった。

敬愛大学経済学部経営学科での寄付講座の概要を以下に示す。

- (1) 設置年度 令和2年度（2020度）9月
- (2) 講座担当責任 アーネスト育成財団 専務理事 小平 和一郎
- (3) 寄付者 一般財団法人アーネスト育成財団
- (4) 寄付金 百万円（年間）
- (5) 開講科目 経営シミュレーション（西河技術経営学入門）
- (6) 講座構成 『西河「技術経営学」入門』の章単位で講座を進める。
- (7) 期待する成果 日本企業にとって重要な「技術経営」という新しい概念の学習で、グローバルな市場でも通用する競争力の強化策を学べる。
- (8) 財団の狙い 「西河技術経営学」の再評価と学術研究の機会。受講生に伝える技術の実践と実習機会を得る。

## 4. 技術経営人財育成セミナー

「変革期のリーダーが学ぶことは何か」とのテーマで、技術経営人財育成セミナーを開催して来た。ただし、コロナ感染問題が起きてからは開催を見合わせてきた。

### <セミナー開催実績>

#### 第 27 回 技術経営人財育成セミナー（2020.01.08）

下斗米 秀之 明治大学政治経済学部専任講師、博士（経済学）

#### テーマ：アメリカ経済にとって移民とは何か

アメリカ資本主義の成立と発展の究明を研究課題とするアメリカ経済史研究にとって、移民は重要なテーマである。国内の農業地域から労働力が供給されたヨーロッパとは異なり、労働市場に参入してきた移民を賃金労働者として活用したことにアメリカの特徴があるからだ。移民の自由な流入は、「移民の国」アメリカを特徴づける経済成長の源泉である。

今日、アメリカの IT 情報産業における技能労働者の多くが、インドを中心としたアジア出身であることは周知の事実であるが、これも移民政策の結果である。なぜなら戦後アメリカは、能力基準によって移民を選別する、高度技能移民労働者の優先的な受け入れを推し進めたからだ。

その一方で、近年のトランプ大統領の主張のように、アメリカではしばしば移民制限・排斥の機運が高まり、移民問題が主要な政治課題へと浮上する。本報告では、経済史および労働経済学の研究成果を紹介しながら移民政策の歴史を概観し、アメリカ経済にとって移民とは何かについて伺った。



## 5. 調査研究

### 5. 1 「西河技術経営学」研究会

技術経営学の学問化は、遅れている。「経営学」があっても、「技術経営学」は見当たらない。技術経営に「学」をつけた「技術経営学」に取り組んだ。学問とは、社会経験が無くても、学ぶことができる情報である。時代超えられる知識の集積化である。「技術経営学」の体系化を目指した。

設立以来、アーネスト育成財団は、経営人財の育成に取り組んできた。技術経営に「西河」を冠したのは、西河技術経営塾での成果を知見として整理し、財団独自の経営に対するコンセプトと同塾の特徴の形式知化に取り組んだ。モノづくり日本のためには、「技術経営」の学問化が必要である。

研究の成果は『西河「技術経営学」入門』と題し、本年3月24日に芙蓉書房出版から出版した。

(1) 著者 西河洋一、小平和一郎、浅野昌宏、杉本晴重

(2) 総ページ数 365頁

(3) 定価 2,800円＋税

### 5. 2 地方創生研究会、

日本は、人口減少、高齢化という社会現象が起きていて、その影響をまともに受けているのが、地方である。なぜ日本は首都および首都圏に集中してしまうのか。首都集中は、効率的であるのか、人の生活空間として最適なのかとの疑問が、出始めている。

そんな中、西河技術経営塾の修了生の中にも地方創生に取り組んでいるものもいる。日本開発工学会の会員の中にも、研究に取り組む必要性を提起する研究者も多く、財団に研究会を設置して取り組むこととした。

#### (1) 参加者

西河洋一（理事長）、小平和一郎（専務理事）、浅野昌弘（理事）、吉池富士夫（座長：飯田グループホールディングス(株)社長付）、平田貞代（芝浦工業大学 准教授）、山中隆敏（研究員）、小坂哲平（小坂建設(株)代表取締役）、石井唯行（(株)ワンズディー代表取締役）、菫塚功（埼玉県秩父農林振興センター管理部・担当部長：2020年3月末まで）。

#### (2) 開催

2019年10月24日（木）午後6時から、第1回「地方創生研究会」を開催した。

2019年12月06日（木）午後6時から、第2回「地方創生研究会」を開催した。

2020年02月21日（金）午後6時から、第3回「地方創生研究会」を開催した。

#### (3) その他

研究成果が出てきた段階で、日本開発工学会の協賛を得て、例えば意見交換会などを企画提案することを考えている。2019年12月14日（土）、日本工業倶楽部で開催した『地域創生におけるビジネス創生』と題する日本開発工学会シンポジウムを協賛支援した。

## 6. 広報活動

### (1) ホームページの運用

ドメイン名”eufd.org”を取得し、ホームページを運用している。ホームページを月2回以上更新してきた。

表1 ホームページアクセス数集計(2019年10月01日～2020年9月30日)

No	ページ	合計	日本以外のアクセス国と回数
1	概要	1,419	米：60、中：8、韓：5、台：1、豪：1、英：1、伊：4、ベ：1
2	西河技術経営塾	2,051	米：21、中：2、英：1、豪：1、伊：1
3	セミナー	3,317	米：140、中：51、韓：7、台：6、英：14、仏：2、蘭：1、ベ：2、伯：1
4	研究会	634	米：7、韓：1、台：1、英：1、伊：1
5	アクセス	179	なし
	計	7,600	

(注1) ベ：ベトナム 豪：オーストラリア 伊：イタリア 蘭：オランダ 伯：ブラジル

(注2) ホームページ (<http://www.eufd.org>) は、HOME、概要、西河経営塾、セミナー、研究会、アクセスで構成されている。

### (2) 活動報告書(印刷物)の発行

活動報告「誠実を伝える情報紙 Earnest」を本年度は、4回発行した。

豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目指す当財団の活動を広報することができた。具体的には、人財育成と活用に関する研究委員会の活動報告、西河技術経営塾の取り組み報告、セミナー概要の報告などを行って、情報紙としての役割を果たしてきた。

以下、各号の概要を報告する。

- ・ Vol.08 No.1(S028) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2019.10.25)
  - 西河技術経営学を学ぶ(西河技術経営塾)
  - 地方創生で日本を元気にする(地方創生研究会)
  - 海外取引の基礎知識を学ぶ(「西河技術経営学」研究会)
- ・ Vol.08 No.2(S029) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2020.01.16)
  - アメリカ経済にとっての移民とはなにか(技術経営人財育成セミナー(第27回))
  - 異業種交流の場とビジネス創生の場に(賀詞交換会(令和2年))
  - 西河「技術経営学」としての整理(西河技術経営塾 実践経営スクール)
- ・ Vol.08 No.3(S030) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2020.04.15)
  - 21世紀の地域創生論研究(地方創生研究会(第2回、第3回))

技術経営を学び地方を元気にする（西河技術経営塾 入門講座）  
技術経営で変革の波に乗る（西河技術経営塾・実践経営スクール）

・ Vol.08 No.4(S031) 誠実を伝える情報紙 Earnest（2020.07.27）

コロナ新常态この社会変革をどのように乗り切る（特集 西河技術経営塾修了生のコロナ対応）技術経営人財を育成し、地方を元気に（西河技術経営塾 入門講座）  
技術経営学を実践的かつ体系的に学ぶ（西河技術経営塾・実践経営スクール）

### （３）賀詞交歓会（令和２年）

東京駅前にある日本工業倶楽部内会議室で、2020年1月15日（水）に賀詞交歓会を開催した。参加者は74名。賀詞交換会は、経営人財の育成を手掛ける財団が名刺交換から始まるビジネス会話の場を財団活動の一環として作ることができないか考えてきた結果の姿である。

賀詞交歓が東京、横浜、千葉の3つの空間と異業種交流の場とビジネス創生の場になればと期待している。令和3年開催の賀詞交歓会は、コロナ感染のこともあり中止を決めた。

### （４）広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や日本開発工学会「開発工学」に広告を掲載した。

## 7. 役員と評議員

### 7. 1 役員

- (1) 理事長 西河 洋一 (株)アーネストワン 代表取締役会長)
- (2) 専務理事 小平和一朗 (株)イー・ブランド 21 代表取締役)
- (3) 理事 浅野 昌宏 (一般社団法人アフリカ協会 副理事長)  
杉本 晴重 (元(株)沖データ代表取締役社長)
- (4) 監事 廣田 令子 (税理士)
- (5) 顧問 吉久保誠一 (元TOTO(株)専務取締役)、平強 (Tazan International CEO)、  
坂巻 資敏 (元(株)リコー 常務執行役員)、大橋克己 (株)クラレ社友)、  
角 忠夫 (武蔵野経営塾塾頭)

### 7. 2 評議員

- 山中 隆敏 (株)メディカルパーフェクト代表取締役)
- 吉久保 信一 (弁護士)
- 前田 光幸 (エネルギー&イノベーション研究所代表)
- 小林 守 (株)産創コーポレーション代表取締役)
- 倉田 洋 (産業能率大学教授)

## 8. 評議員会と理事会

### 8. 1 評議員会

第7回定時評議員会を2019年12月11日（水）、フォーレストテラス明治神宮内「椎」の間にて行った。

- 第1号議案 第7期事業報告の承認
- 第2号議案 第7期決算報告書の承認
- 第3号議案 第8期事業計画
- 第4号議案 第8期収支予算書
- 第5号議案 評議員、理事及び監事の報酬の額
- 第6号議案 議事録署名人の選任

### 8. 2 理事会

以下の理事会を開催した。

#### (1) 第67回理事会（2019年10月） 2019年10月16日

- 第1号議案 2019年9月度決算報告
- 第2号議案 定款変更
- 第3号議案 定時評議委員会の招集
- 第4号議案 第8期（2019年度）役員体制、事業計画（案）
- 第5号議案 エアコンの購入

#### (2) 第68回理事会（2019年11月） 2019年11月20日

- 第1号議案 2019年10月度決算報告
- 第2号議案 定時評議員会の議題の承認
- 第3号議案 賀詞交換会
- 第4号議案 定時評議員会議案書（案）の審議

#### (3) 第69回理事会（2019年12月） 2019年12月11日

- 第1号議案 理事長および専務理事の選任
- 第2号議案 顧問の選任
- 第3号議案 顧問の報酬の額

#### (4) 第70回理事会（2020年02月） 2019年02月12日

- 第1号議案 2019年11月、12月、2020年1月度決算報告
- 第2号議案 定例評議員会および賀詞交換会の報告
- 第3号議案 公益認定申請の取り下げ

**(5) 第71回理事会(2020年03月) 2020年03月11日**

- 第1号議案 2020年2月度決算報告
- 第2号議案 『西河「技術経営塾」入門』の納入予定報告
- 第3号議案 日本開発工学会の研究会への協賛の提案

**(6) 第72回理事会(2020年07月) 2020年07月08日**

- 第1号議案 2020年3月度～6月度決算報告
- 第2号議案 パワービルダー研究の取り組み
- 第3号議案 西河技術経営塾・実践経営スクール(第8期生)
- 第4号議案 西河技術経営塾入門講座(高崎)
- 第5号議案 事務所の清掃の業務依頼
- 第6号議案 新年賀詞交換会(2021年1月開催)

**(7) 第73回理事会(2020年09月) 2020年09月09日**

- 第1号議案 2020年7月度、8月度決算報告
- 第2号議案 コンピュータ&ソフトウェア基礎教育研究会準備会合の取り組み
- 第3号議案 西河技術経営塾8期生と9期生の講師体制
  - (1) 8期生と講師体制
  - (2) 9期生と講師体制
- 第4号議案 新年賀詞交換会(2021年1月開催)
- 第5号議案 コピー機の代替

## 9. 外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組む

- (1) 敬愛大学（三幣利夫学長）で寄付講座第3期（百万円寄付）に取り組む。
- (2) 一般社団法人日本開発工学会（馬場玄式会長）法人会員。シンポジウムの協賛企業となり協賛金を（10万円）寄付、事務所の提供、活動支援など。
- (3) 芝浦工業大学 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長） 活動支援など。
- (4) 西河塾代々木会（鈴木義晴会長） 理事に杉本晴重、監事に浅野昌弘が就任。
- (5) 一般社団法人アフリカ協会（松浦晃一郎会長） 法人会員。当財団の浅野昌宏が副理事長に就任している。アフリカ支援などに取り組む。

以上